

会報ひまわり

創刊第3号

目次

- 1:療育知識〈個と環境の相互作用として子どもの行動を考える〉

- 2:お知らせ〈ペアレントサポート事業の経過報告〉

- 3:ペアレントサポート事業各講座を受講された方からのご感想
 - ①グループペアレントトレーニング基礎講座を受講しての感想
 - ②支援者講座を受講して

療育知識〈個と環境の相互作用として子どもの行動を考える〉

前回の会報誌ひまわり創刊第2号に関連させて、今回は、子どもの行動を「個と環境の相互作用」に基づいて記載していきます。

行動は、「個と環境の相互作用」に基づいて表現されると考えることができます。

なぜならば、行動を起こすということは、つまり環境への働きかけであり、また、環境によって、起こす行動も異なっていくとされています。

つまり、「行動を起こす固体」と「それを受け止める環境」が相互にやりとりされることによって、行動は成り立っています。

例

| |
|--------------------------------------------------|
| 「自動販売機が無い世界で生活している人間は、自動販売機で買い物をするための「行動」を知らない。」 |
|--------------------------------------------------|

まるで当然の事のように感じる方もいらっしゃると思います。

しかし、上記が、「環境と行動」に焦点を当てた考え方です。

つまり、環境が、人間の行動を調整することがあるということです。

そして、環境とは、その場面だけでなく、なによりもそこにいる「人」、つまり養育者や指導者が中心にいます。

以上のように考えていけば、子ども達は、「環境により行動を学習していく」側面があると捉えることができます。

ですから、環境を整えて指導を行っていくことで、学習して欲しいことを、その対象に適格に教えていくことができます。

つまり、だからこそ環境を整えていくことが非常に大切になります。

そして、その上で適切な指導を行っていくことが大切です。

ただし、指導の上では、「環境」だけでなく、子どもの行動をとらえるために、常にその個人の「性格・個性」を尊重して考えていくことが大切です。

(ここでいう「性格・個性」とは、「個人の発達や・好きなもの」などが当てはまります。)

なぜなら、そこを理解することが、会報ひまわりで記載した「子どもの物差しで評価する」「子どもの好きなものを探す」こと(会報2号をご参照ください)へつながっていくからです。

ですから、「個人を尊重」した上で、その子どもが生活している環境を「理解」し「環境配慮」を行った上で指導・支援していくことが求められると考えています。

お知らせ～ペアレントサポート事業経過報告～

いつも会報誌をご覧頂いておりますこと、誠にありがとうございます。

さて、表題のペアレントサポート事業に関してでございますが、この事業は22年度4月からスタートしたのですが、「ペアレントトレーニング基礎講座」「支援者向け講座」の第1期目が終了し、次回の開催日について検討しているところでございます。

当会の代表でもある、講座の講師のスケジュールなどの調整もございしますが、日程が決定次第早急にホームページを通してお知らせいたします。

ところで、大変嬉しいことに、会報を作成するに当たって、講座にご参加いただきました保護者の方・支援者の方が快く講座の感想を書いていただきました。

ホームページを通してではございますが、あらためまして、ご参加いただきました方ならびにご感想をお書きいただきました方へ、ひまわりの会スタッフ一同心より御礼申し上げます。

もしお時間がございましたら、最後までお読みいただけたらと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

NPO 法人ひまわりの会 事務局

グループペアレントトレーニング基礎講座を受講しての感想

私は日々子育てに奮闘中の母親でございます。

子育ての中では、うまくいかないこともたくさんあり、途方に暮れてしまうこともございますが、そんな中「ペアレントトレーニング」のを知り、ひまわりの会で開催することを知り、申し込みました。

まず、はじめにプログラムを拝見させていただきました際には、その内容が基礎と言いながらもかなりハイレベルのように感じ、自分に習得できるだろうかと心配しました。

けれども、講義を行なってくださいました尾串光康先生の奇抜な理論展開を驚きながらも楽しく聞いているうちに、いつのまにか講義の内容の理解へとつながっていききました。

その中でも特に印象に残ったことは、「行動は私達大人が考えている以上に複雑な機能によって成り立っていて、だから1つの行動を教える際には、その行動を細かく分解して、分解した行動を1つずつ確実にしていくことが大切です。それが、子どもの目線に立って教えていくことにつながります。」というようなことをおっしゃっていたことです。

また、「ここに来ている方は子育てに一生懸命でしょう。だからこそ、親である貴方達が自分自身を大切にすることを忘れず、無理をせず、余裕を持って子どもと接してください。」

とおっしゃっていたことに、とても感動しましたことを覚えております。

それを聞いて、私は、ついつい無理をして、その結果子どもに当たっているということを思い出しました。

ですから、今回の講義を終えて、私は「子どもを褒めること」「講義で教えていただいたように細かいステップで教えていく」「無理をしない」ことを忘れず、これからの子育てを楽しく行なっていきたいと思っています。

今回の講義の講師でございます尾串光康先生と、ひまわりの会に大変感謝しております。これからも相談などさせていただきますが、ぜひよろしく願いいたします。

支援者向け講座を受講して(感想)

障害児学童スタッフ

関東では、中々連続的な講座かつ具体的な支援方法の提案を勉強できる場所が見つからない中、ひまわりの会にて支援者向け講座を行なっていることを知り、受講させていただきました。

講座の講師である代表の尾串光康先生は、「6回の講義では基礎的なことしかお伝えすることはできませんが、今後臨床現場で壁にぶつかった際に、常に望ましい方法があり、その方法を見出すために、基礎的なことは常にその基盤となるでしょう。」とおっしゃっておいりました。

そして、冒頭で「支援者として」というテーマが掲げられ、「望ましい介入方法は常に存在し、指導・支援における技法は必ず理論が内在する」また、「いかに子ども一人ひとりの生育暦・発達状況に合わせて変化させていくのが重要」とのことで、初心者の私は、あらためて自分の活動の重要性を実感させられました。

私は、まだ現場での経験は少ないのですが、一人ひとりに合わせた支援は大変困難だと感じております。

しかし、今回教えていただきましたことを私の基盤と考えることで、支援者としての姿勢を忘れず、日々精進していきたいと考えております。

そして、講座へ参加させていただき、知識として理解したことを、しっかりと整理したうえで、現場で活かしていけることを目標に活動していきたいと思いました。

今回の支援者向け講座を受講させていただき、本当にありがとうございました。